

ARアプリを使った 防災まちあるきプログラムの 作成と評価

環境デザイン学科・松村プロジェクト

担当教員：松村暢彦

学生：石本雄大・大森海智・小野公輔・酒井万悠子

Agenda



活動報告



マチアルキについて



今後の展望

松村プロジェクト



活動報告



マチアルキについて



今後の展望

対象：西予市野村町

西予市
野村町



対象：西予市野村町

シルクとミルクの町



乙亥大相撲



背景 2018/07/07西日本豪雨水害



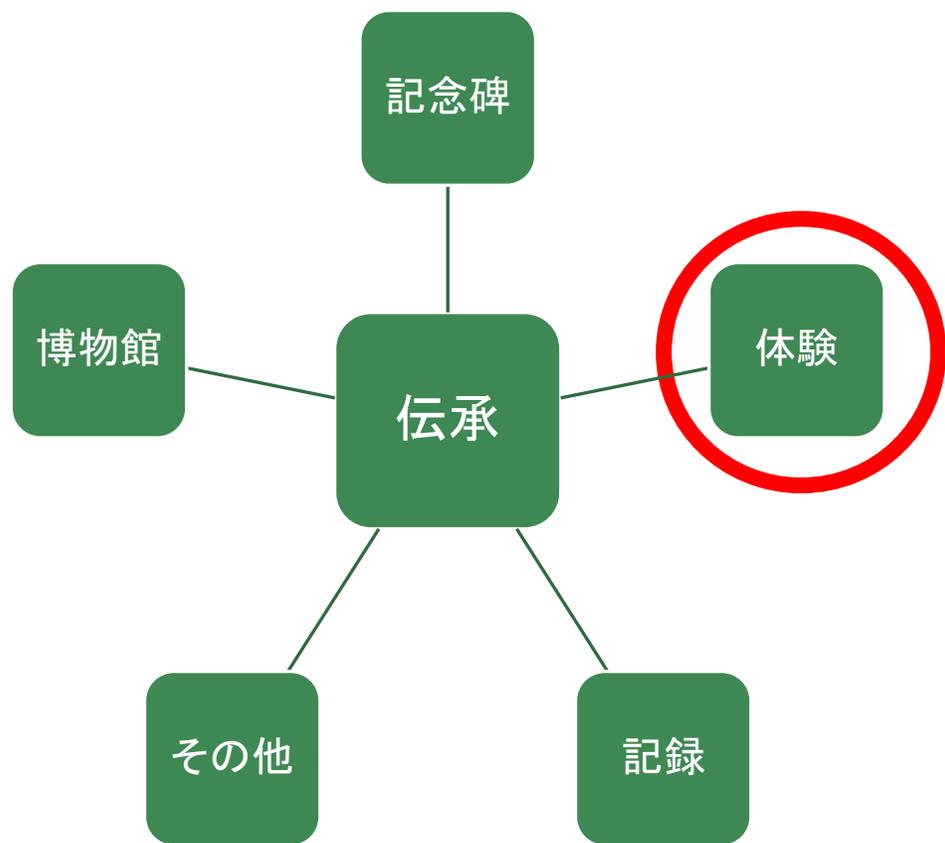
背景 2018/07/07西日本豪雨水害



災害伝承



意義



体験

⇒ 体験を通じて災害を風化させないプログラムを！



活動報告



デジタル技術を活用した防災学習の進め方などを住民らが学んだ講座

災害の記憶伝承にデジタル技術を活用しよう
と、西予市野村町野村の本家緒方蔵で8日、拡張現実（AR）技術などを使ってまちづりに取り組む関係者を招いた講座があり、住民ら約50人が被害状況の伝え方などを学んだ。
東日本大震災で被災したPO法人「北いわて未来ラボ」の代表理事、野村町野村で活動する「ボ」の神先真さん（51）は、

災害継承 デジタル活用

アプリで学習／AR浸水体感

西予・野村で講座 住民ら先進事例学ぶ

自作のまちあるき用アプリを使う子ども向けの体験学習イベント「のどもん」を紹介。村内に潜む架空の動物を探しゲームに取り組みながら、被災地の災害前後の風景を見比べたり避難路の確認ができたりし、防災教育を楽しみながら効果的に実施できる」と述べた。
AR技術を業しめる無料アプリ「COCOAR」を展開するクラウドサーカス（東京）の社員渡辺大誠さん（24）はARの魅力を「現実にはない世界を表現できる面白さがある」と説明。防災面では画面上で浸水具合を体感できるなど「自分事として捉えることが可能になる」とし「感情が動くような仕掛けを考えるのが重要」とまとめた。
講座は地域組織と愛媛大と大阪大でつくる「NEOのむら」に所属する愛媛大の学生が企画。同大3年石本雄大さん（21）は「アプリの開発など災害を風化させないための活動に挑戦していきたい」と意欲を示していた。（山内拓郎）



活動報告



アプリで学習 / AR浸水体感

災害継承 デジタル活用

災害の記憶伝承にデジタル技術を活用しようと、西予市野村町野村の林家緒方蔵で8日、拡張現実（AR）技術などを使ってまちづくりに取り組み関係者を招いた講座があり、住民ら約50人が被害状況の伝え方などを学んだ。

東日本大震災で被災したPO法人「北いわて未来ラボ」の神先真さん（右）は、



デジタル技術を活用した防災学習の進め方を住民らが学んだ講座

西予・野村で講座 住民ら先進事例学ぶ

自作のまちあるき用アプリを使う子ども向けの体験学習イベント「のどもん」を紹介。村内に潜む架空の動物を探すゲームに取り組みながら、被災地の災害前後の風景を見比べたり避難路の確認ができた。防災教育を楽しく効果的に実施できる」と述べた。AR技術を楽しめる無料アプリ「COCOAR」を展開するクラウドサーカス（東京）の社員渡辺大誠さん（左）はARの魅力を「現実にはない世界を表現できる面白さがある」と説明。防災面では画面上で浸水具合を体感できるなど「自分事として捉えることが可能になる」とし「感情が動くような仕掛けを考えるのが重要」とまとめた。

講座は地域組織と愛媛大と大阪大でつくる「NEOのむら」に所属する愛媛大の学生が企画。同日3年石本雄大さん（右）は「アプリの開発など災害を風化させないための活動に挑戦していきたい」と意欲を示していた。（山内拓郎）

プロジェクト
決定

【講演】2023/7
がいはんよ大学

3Q~4Q

【発表】2024/1
@野村小学校

今後

がいなんよ大学

主催:



企画:



がいなんよ大学 in のむら 第12講



デジタル技術 まち歩き座談会

2023年
7月8日(土)
14:00 ~ 16:00

今回のがいなんよ大学の会場である、本家緒方蔵を含む西予市野村地区は、2018年の7月7日、西日本豪雨で甚大な被害に遭いました。復興に向かって新しく生まれ変わろうとしている野村地区で、災害の記憶を風化させないためにも、AR技術(デジタル技術)を用いて、災害の記憶を継承するための方法を探ります。

プログラム 場所 本家緒方蔵 (野村町野村) 定員 50名

講演① NPO法人 北いわて未来ラボ 神先 真 様

「まちあるきアプリによる災害復興と地域活性化」

▷岩手県九戸野田村で開催された「のだもん」の活動の事例を通して、アプリケーションを活用したまちづくりをするときは何が重要になるのかについて考えます



神先 真 様

講演② クラウドサーカス株式会社 渡邊 大誠 様

「まちあるきアプリで変わる地域」

▷クラウドサーカス株式会社が提供している「COCOAR」や「LESSAR」などのサービスはどのようなものなのか、そしてそれを利用したまちづくりの在り方について考えます。



渡邊 大誠 様

ディスカッション 宣言

講師のお二人 × 野村町民
× 野村高校生 × 愛媛大生

愛媛大学社会共創学部
環境デザイン学科3回生
松村プロジェクトより

主催 一般社団法人 NEOのむら



活動報告



アプリで学習 / AR浸水体感

災害継承 デジタル活用

災害の記憶伝承にデジタル技術を活用しようと、西予市野村町野村の本家緒方蔵で8日、拡張現実（AR）技術などを使ってまちづくりに取り組む関係者を招いた講座があり、住民ら約50人が被害状況の伝え方などを学んだ。

東日本大震災で被災した、PO法人「北いわて未来ラボ」の神先真さん（51）は、



デジタル技術を活用した防災学習の進め方などを住民らが学んだ講座

西予・野村で講座 住民ら先進事例学ぶ

自作のまちあるき用アプリを使う子ども向けの体験学習イベント「のどもん」を紹介。村内に潜む架空の動物を探しゲームに取り組みながら、被災地の災害前後の風景を見比べたり避難路の確認ができた。防災教育を楽しくしながら効果的に実施できる」と述べた。AR技術を業しめる無料アプリ「COCOAR」を展開するクラウドサーカス（東京）の社員渡辺大誠さん（24）はARの魅力を一現実にはない世界を表現できる面白さがある」と説明。防災面では画面上で浸水具合を体感できるなど「自分事として捉えることが可能になる」とし「感情が動くような仕掛けを考えるのが重要」とまとめた。講座は地域組織と愛媛大と大阪大でつくる「NEOのむら」に所属する愛媛大の学生が企画。同大3年石本雄大さん（21）は「アプリの開発など災害を風化させないための活動に挑戦していきたい」と意欲を示していた。（山内拓郎）



発表@野村小学校



野村小学校5年生の生徒さんと一緒にマチアルキ



松村プロジェクト



活動報告



マチアルキについて



今後の展望

マチアルキ



ARを使って情報発信ができるICTツール



29m

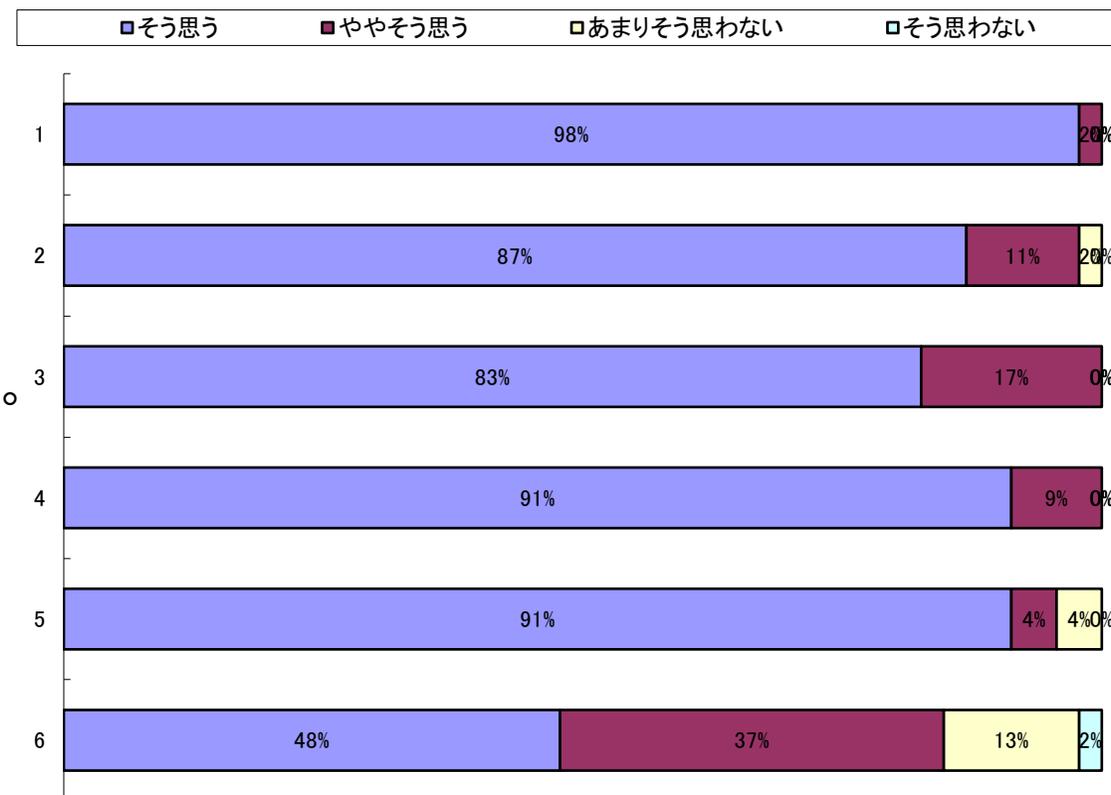
268m 460m

209m



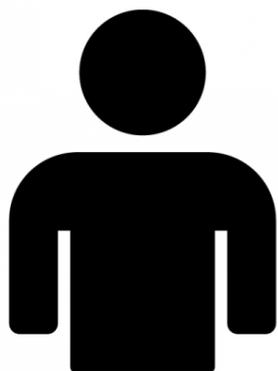
評価（野村小学校でのアンケート調査より）

- Q1 野村地区の災害について分かった。
- Q2 野村地区の被害状況について分かった。
- Q3 マチアルキアプリの使い方は分かりやすかった。
- Q4 動画や説明文の内容は分かりやすかった。
- Q5 地図の写真や説明文は分かりやすかった。
- Q6 **ワークシートの問題の難易度は適切だった。**

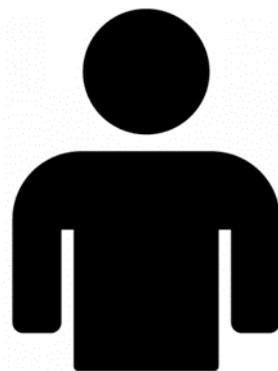


小学生の声 (アンケート調査より)

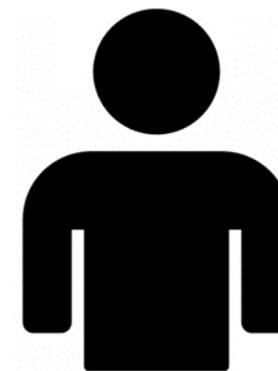
動画を見ることができてわかりやすかったです。**浸水した時の写真と現在の写真との見比べ**もできたので、どんなところが変わったのか知ることができました。



災害時の様子をマチアルキアプリで見たけどとてもわかりやすかったです。野村のことがよくわかりました。そして、**クイズもあって楽しくまちあるきをすることができました。**



災害の被害をあまり知らなかったのを知れてよかったです。もっと**復興を手伝っていきたい**なと思いました。



松村プロジェクト



活動報告



マチアルキについて



今後の展望



NEOのむら
NEO Nomura

での運用(引継ぎ)



NEOのむら
NEO Nomura

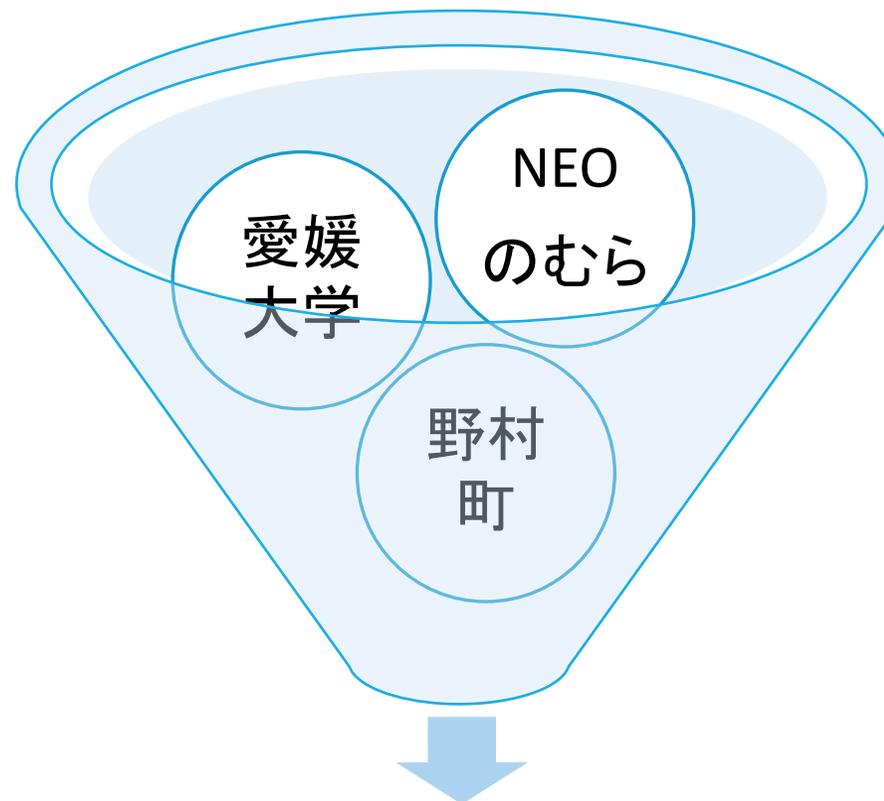
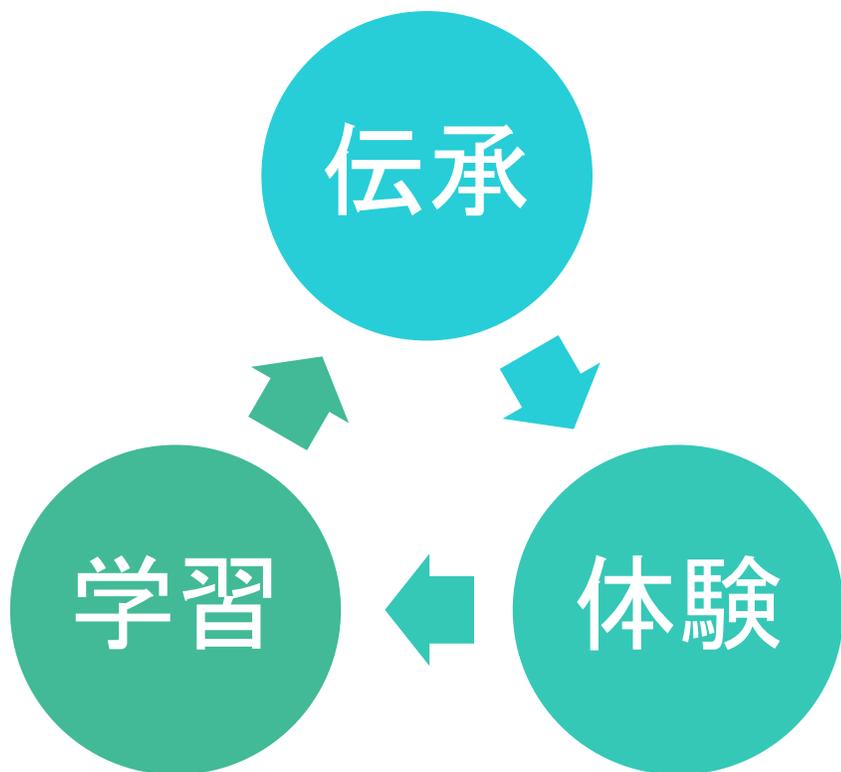
非営利型一般社団法人NEOのむら

松村プロジェクト

NEOのむら

視察・防災学習

まとめ



協働による**防災学習**の推進

ご清聴ありがとうございました！

